

ネットワーク Network



現在、和歌山県内には10頭前後の野生の月の輪熊が生息しているとのこと。8年前ある人が山で熊に出会い、熊は何も危害を加えなかったが、彼は驚いて逃げ帰り県に駆除許可を申請、猟友会が出動し熊の巣穴を発見したハンターはその中に銃口を差し込んで引き金を引き、中にいた母熊と子熊1頭は即死、運良く母親の陰にいて助かったもう1頭のオスの子熊は県の鳥獣保護員連絡会長・東山省三氏が育てることになりました。県が熊牧場を作る計画なのでそれまでという約束でした。東山氏はまだ離乳前の子熊に太郎と名付け、哺乳びんでミルクを飲ませ夜は同じ布団の中で添い寝をする等して太郎はスクスク育ちましたが、そのうち家では飼いきれなくなり、動物園を転々としたあげくに熊牧場計画は中止、再び東山氏に引き取られた太郎は生石高原の牧場に飼育舎を作ってもらい、京都で保護されたもう1頭の健太（昨夏死亡）と飼われています。小さい時から我が子同様に育てられたので太郎はとても人なつこく、8才になった今も東山氏から口移しておやつを貰っています。東山氏が「背中を搔いてやるから後ろを向け」と言うときクルリと後ろを向いてぬいぐるみのようにバタンと座り、背中を撫でて貰うと気持ち良さそうに目を細めています。

もう野生には戻せず、このままずっと飼育するとのことでした。大型の野生動物が自然の中で暮らすには今の日本は余りにも環境が悪すぎます。殊に太郎の様に人慣れした熊を野生に戻すにはエサの獲り方よりもまず人に見つかるなという事を救えなければならないとは悲しいことですが、さもないと母親の二の前になることは明らかです。また山で餓死していた子熊も発見されたことを聞くと、野生が良いのかペットとして飼われる方が幸せなのか難しい問題です。

このコーナーでは、それぞれの地域で恵まれない動物の保護活動や啓蒙運動に取り組んでおられる方々を紹介しています。今までは犬猫などペット動物の観点からその保護活動をなさっている方に焦点を合わせてきましたが、広く一般の人の理解を得るには人間との共存も必要です。今回から少し視点を変えて、「人と動物との絆」をテーマに人間によって絶滅の危機にさらされている野生動物の保護に奔走されているグループをご紹介します。

しかし、東山氏は太郎をただのペットとして飼うのではなく、出来るだけ多くの人に見てもらい、命の尊さと自然保護を訴えて行きたいと考えておられます。「太郎一代記」と名付けた、

写真やスケッチ入りの全長7mにも及ぶ絵巻物を製作し、要請があればそれを持って出張講演をされているそうです。親兄弟を一瞬のうちに失った太郎の話は、心ある人には涙無くしては聞けません。母熊を撃ったハンターも初めは県の許可が出たから撃ったのが何故悪いとうそぶいていましたが、東山氏の説得に最後にはもう二度と熊は撃たないと言ったそうです。

東山氏は簡単に駆除許可を出すような行政と縁を切り、「野生鳥獣保護友の会」を結成して野生動物の救助活動をなさっています。同氏は人と野生獣との住み分けを提唱し、熊たちが人里に下りてこないように給餌場を作ってサツマイモその他の餌を定期的に山に運んだり、餌になる栗やクルミの苗木を植林しています。（現在数約1000本）また、会員の皆さんは毎年4月に山芋を植える「杖突きハイキング」を実施しています。去年は近畿各地から58名が参加し、ムカゴ植えに汗を流しました。この他、野鳥のための給餌台も設置しパン屑などを給餌しています。これらの地道な活動が評価され、H7年には世界自然保護基金（WWF）から助成金が交付されました。「山にエサがあれば野生動物は里には来ない。空腹に耐え兼ねておりてきた熊を、行政や学者は射殺する代わりに捕獲し、学習と称して二度と里に来ないように「お仕置き」した後山に帰すことを提唱しているが、実状は電撃柵

人と動物との住み分けを考える

紀伊山地・野生鳥獣保護友の会 月の輪熊「太郎」の物語

を設置したり、熊をドラム缶に何日も餌もやらずに閉じ込めて外からドラム缶をガンガン叩きまくると熊は反狂乱になる。これはお仕置きではなく虐待だ」と東山氏は憤慨する。

東山氏の診療所にはいつも多くの傷ついたカモシカ、ゴイサギ、ノスリ等の野生動物が運び込まれます。これらは人や猟犬に追われて崖から落ちたり密猟のワナにかかった動物たちです。東山氏は彼等に治療とリハビリを施した後、再び人間に捕まることが無いよう祈りながら山に帰しています。

太郎のいる生石高原は高度860m、海南市から車で1時間位の静かでも眺めのよい所です。東山氏は、「皆様も一度太郎の背中を撫でに来て下さい。ご一報下されば案内致します」と語っています。また、東山氏は犬や猫の保護にも力をいれており、避妊去勢などの啓蒙運動や、愛護団体にもご協力戴いています。

※アークからお願い……熊が冬眠から覚めた春から秋にかけては多量のエサが必要です。イモ、屑リンゴ、木の実、パンなどありましたら送ってあげて下さいませんか。また資金のご協力も是非お願い致します。

野生鳥獣保護友の会 代表 東山 省三
事務局 和歌山県海草郡下津町黒田121
TEL&FAX 0734-92-5078
寄付金振込み先（郵便振替）00900-2-305789 野生生物保護寄金

